



生産者の三上統史さんが栽培の取り組みを発表

たまねぎの収益性に期待

たまねぎ栽培研修会が12月18日、松の館で行われ、生産者ら約300人がたまねぎ栽培について理解を深めました。県は、稲作と野菜などの作付けを合わせた複合経営を推進しており、収益性が高いトマト、にんにくなどを促進してきました。これらに続き、水田の転作作物としての成功事例や東北地方に主要産地がないことなどから、たまねぎに着目したものです。

研修会では、県の担当者や生産者らがたまねぎ栽培の現状と課題などについて講演。中泊町の生産者・坂本譲太さんは「個人で新しい作物を出荷するのは大変。栽培技術の向上や機械等設備投資の資金、販路・規格調整など、行政とJA、生産者が連携する必要がある」と話していました。

一年の交通事故ゼロを祈願

つがる地区交通安全協会（片山徳明会長）は1月5日、三新田神社（菅井真澄宮司）で交通安全祈願祭を行い、交通事故のないまちづくりに向け決意を新たにしました。

祈願祭には福島市長、古川昭治つがる警察署長をはじめ、つがる地区安全運転管理事業主会、安全運転管理者協会、市交通安全母の会連合会、地区交通指導隊などの代表者ら20人が出席。菅井宮司が祝詞を奏上した後、参加者は玉串を捧げて今年一年の無事故を祈願しました。

片山会長は「関係機関の連携を強めながら、市民が安心して暮らせるまちづくりに向けた活動を続けていきましょう」と呼びかけていました。



交通安全を願う出席者



握手を交わす吉永東北支店長(左)と福島市長(右)

移住促進へ向け相互協力

市と住宅金融支援機構は1月15日、住宅ローン「フラット35」の金利優遇に関する協定を締結しました。

フラット35とは、同機構が民間金融機関と提携して貸し出す全期間固定金利の住宅ローン。今回の協定締結により、市の「移住者マイホーム応援事業」を活用して住宅を取得する場合に、当初5年間の金利を年0.25%引き下げます。

市役所で行われた締結式で、同機構の吉永兼一東北支店長は「市の助成制度と金利引き下げの相乗効果で、子育て世帯等の移住が促進されることを祈念します」と述べ、福島市長は「移住者の好条件が増えた。合わせることで更なる効果が期待できます」と答えていました。

田村つまさん100歳おめでとう

田村つまさん（木造善積）が1月17日、めでたく満100歳を迎えられ、入所先の老人保健施設湖水荘で顕彰状の授与式が行われました。

大正7年生まれの田村さんは、旧柴田村出身。亡夫・修一さんと農業を営み、子ども9人、孫14人、ひ孫15人に恵まれました。足腰が丈夫だった頃は、高齢者訪問などの奉仕活動にも積極的に参加し、地域のふれあいを大事にしていたそうです。

授与式では、市の白戸福祉部長より顕彰状が手渡され、お祝いに駆けつけた親族や施設職員らが祝福。次女の佐藤町子さんは「今でも肉を好んで食べています。食欲旺盛なのが長生きの秘訣では」と話していました。



親族が見守る中、顕彰を受ける田村さん

柏ミニバスが県優勝、いざ全国へ

柏小学校の児童らが所属する「柏ミニバススポーツ少年団」が、1月7日、8日に行われた全国ミニバスケットボール大会県予選会（青森市）で見事優勝。3月28日から群馬県で開催される全国大会への出場を決めました。小柄な選手が多いこのチームは、スピードと粘り強い守備が持ち味。予選会では、身長で上回る相手に接戦が続きましたが、絶対に走り負けないスタミナで全4戦を制し、8年ぶり3度目となる優勝を飾りました。

1月17日、メンバーは優勝の喜びと全国大会への意気込みを福島市長らに報告。キャプテンの成田倅紳君（6年）は「青森県を代表する気持ちを忘れず全勝してきます。応援よろしくお願いします」と力強く語りました。



全国大会での健闘を誓った柏ミニバスのメンバー



講演する石塚准教授

足元見つめ地域ブランドの発展を

弘前大学公開講座が1月20日、松の館で開催され、市民ら約30人が地域農業の発展について考えました。

講座では、弘前大学農学生命科学部国際園芸農学科の石塚哉史准教授が「地域農業について考える—国際化が進展する中での青森の食と農—」と題して、地域ブランド振興の動向と課題について講演。地域ブランド関連政策のほか、先進事例として、加賀野菜で知られる石川県金沢市のセカンドブランド構築の取り組みなどを紹介しました。

石塚准教授は「ブランド化が叫ばれる中、ブームに流されずに産地や生産者に利益を還元できる管理運営システムを持続、発展させていくことが必要です」と話していました。

地域の宝「縄文文化」を語り伝える

「縄文語り部教室」が1月20日、松の館で開催され、市民ら約40人が縄文文化の魅力を語り合いました。

地域の縄文遺跡を学び広く伝えていこうと、NPO法人つがる縄文の会（川嶋大史理事長）が開くこの教室。この日は、市教育委員会の羽石智治学芸員が、昨年出土した土抗墓群など市内縄文遺跡における最新の発掘状況を報告。続いて、同会会員の田中誠さんが「約12,000年の長きにわたった縄文時代が、じっくりと私たちの生活基盤を醸成した」との考察を語りました。川嶋会長は「世界文化遺産登録への期待も高まるが、それにかかわらず、このすばらしい遺跡を伝える活動を続けていきたい」と話していました。



縄文への思いを語る田中さん



スタンプをもらって笑顔を見せる子どもたち

親子で本に親しむ「おはなしひろば」

つがる市読み聞かせ隊による「おはなしひろば」が1月21日、市立図書館で開催されました。これは、子どもが本に親しむ機会を増やそうと市読書連絡協議会（平川智枝子会長）の有志による読み聞かせ隊が平成28年10月に始めたもの。この日は、約40人の親子連れが絵本5冊の読み聞かせを楽しみ、終了後は、10個貯まるとごほうびがもらえるスタンプカードにハンコをもらっていました。森田町の野呂日彩君（5才）は「おもしろいおはなしいっぱい聞けた。スタンプも貯めたい」と次回を楽しみにしていました。おはなしひろばは毎月第3日曜日開催。平川会長は「先月スタンプが貯まった子もいて、このひろばも定着してきた。気軽に足を運んでください」と話していました。